

日本語検定の勉強法

S科 鶴田、吉春

E科 山田

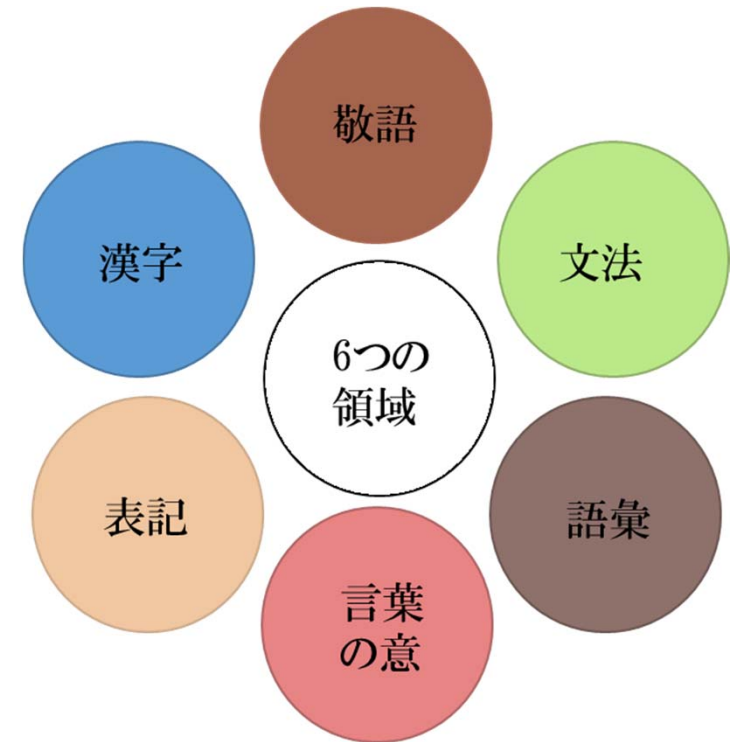
目的

- 日本語を勉強する上で大切なことは日本語検定にあるのではないかと考え、その勉強法を考えることで幅広く日本語の知識を学ぶことができると思ったから、日本語検定の勉強方法を調べた。

日本語検定の概要

日本語検定とは、日本語を使うすべての人のための検定であって、日本語を正しく使えるようになるための手立てとなるものです。

検定内容としては、日本語の総合的な運用能力を測るため、6つの領域から幅広く出題されます。



敬語(尊敬語、謙讓語、丁寧語の適切な言葉)

- ・敬語は尊敬語と謙讓語と丁寧語の三つに分類されている。
それらを使い分けるときに大切なのが何人称かということだ。
- ・人称と敬語の組み合わせの原則
一人称(私・僕など)＋[謙讓語]
二人称(あなた・君など) 三人称(彼・彼女など)＋[尊敬語]
この原則を知っていると敬語を間違えることはほとんどない。
丁寧語は「です、ます」などを使って、上品に感じさせるために使う語
です

文法（語と語の正しい連携）

文法の問題で文法用語を直接問う問題は出ていないので文法用語よりも使い方を覚えることが大切です。

「借りれない」などのら抜き言葉と「読めれる」「書けれる」などの「れ」を足す言葉はよく間違えるので気を付ける。

「おそらく～だろう」など陳述の副詞は後に決まった言い方がくるので注意が必要です。

表記 (適切な漢字の使用、正しい送り仮名)

表記は覚える必要がない。

手っ取り早いのは新聞を読むこと。

また数少ない例外を覚えれば完璧

例えば、表記の勉強法としては元の字を理解することで解くことが出来る。

三日月はみかずきではなく、みかづきと表記する。

これは三日と月が組み合わさっているため、

つきのつに濁点がつくといくこと。

漢字 (漢字や熟語の読み方、意味の理解)

例えば人関係だとにんべん(イ)、水関係だとさんずい(シ)
肉体関係だとにくづき(月)のように部首をみることで
その漢字の分類分けをすることができる。つまり部首
の意味を理解することでヒントを得ることができる。

同音異義語については漢字の意味を理解しなければならない。

例) 追求、追及、追究

『おいとめる』『あとからおいつく』『おいきわめる』

語彙・言葉の意味 (語彙の豊富さ、語と語の関係の理解・言葉の意味の理解)

「対義関係・類語関係など」語と語の関係を理解する。

数を数えるときに適切な助数詞を使えるようにする。

語彙の学習はゴールがないので、このようなことを把握したうえで、新聞を読むなど、日ごろから常に注意を向けて、実際の経験を積み重ねて語彙力を向上させていけばよい。

日本語検定結果(1)

※2012年度を先に実施

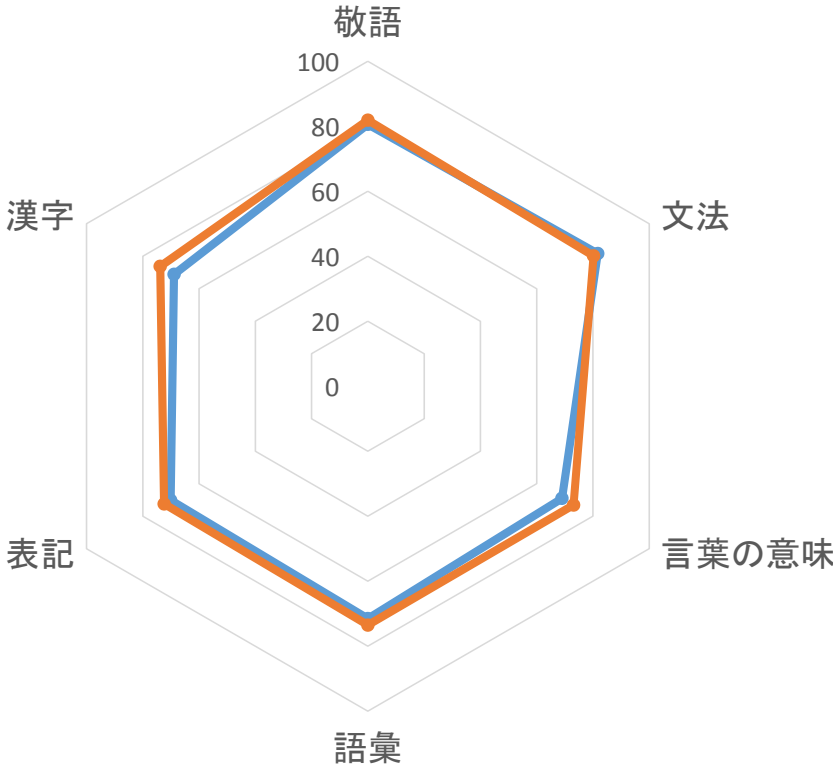
正答率[%]	総合	敬語	文法	語彙	言葉の意味	表記	漢字
津山高専平均2012年	75.4	81.9	80.2	73.1	73.5	72.4	73.8
津山高専平均2014	73.7	80.6	81.7	69.0	71.5	70.1	68.9
Y君2012	75.8	77.8	85.7	50.0	93.8	73.9	73.3
Y君2014	82.5	87.5	75.0	80.0	87.5	78.3	86.7

日本語検定結果(2)

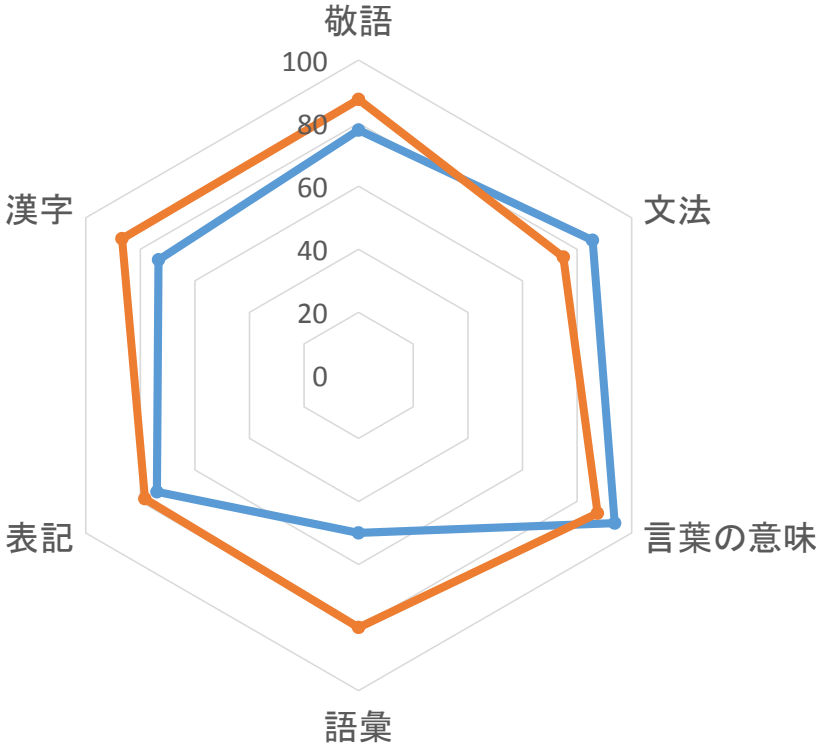
正答率[%]

● 2012 ● 2014

津山高専平均



Y君



間違いの多かった領域

• 語彙

記されている言葉の意味の類義語、対義語を選ぶ。

実際に間違えた例

対義語

× 高尚・・・**下等** (卑俗)

○ 老齡・・・老年

類義語

× 驕慢・・・**怠慢** (高慢)

○ 適度・・・過度

言葉の意味

- ✓高尚・・・知性や品格が高く上品なことである。
- ✓下等・・・物の品質・程度や、品性が劣っていること。
- ✓卑俗・・・いやらしく下品なこと。品がなく俗っぽいこと。
- ✓老齡・・・年とっていること。
- ✓老年・・・年をとって、心身の衰えが目立つ年頃。
- ✓驕慢・・・おごり高ぶって人を見下し、勝手なことをすること。
- ✓怠慢・・・当然しなければならないことをしないこと。
- ✓高慢・・・自分の才能・容貌などが人より優れていると
思い上がって、人を見下すこと。
- ✓適度・・・程度が程よいこと。
- ✓過度・・・度を過ぎること。

考察

2012年度と2014年度を比べると基本的には総合問題を除きほとんどの領域の正答率が向上している。自分たちで考えた勉強方法を試して、実際に正答率が上がったので正しい勉強方法を作れたと考えられる。

結果から考えると、文法や敬語などの平均正答率が高いのは普段からその領域をよく使い、よく聞くからではないだろうか。逆に語彙の問題では普段聞かない単語が問題になっているため多く間違っているのでは。

感想

- 日本語検定三級を受けてみて僕の感想としては簡単だと思った。前期のチャレンジゼミナールで「敬語」について学んでいたのも、その知識がとても役に立った。また、日本語検定が六つの領域から成り立っていることから、過去問を解いてみると、自分の苦手分野を知ることができた。さらに、その苦手分野をしっかりと勉強することによってさらに得点を上げることができた。さらに上の級になると、難易度もかなり上がるのでまた機会があったら挑戦したいと思う。

参考文献

本

- 安達雅夫、川本信幹、速水博司、須永哲矢(2008)『日本語検定公式テキスト「日本語」中級』東京書籍

ネット

- <http://y-manabi.jp/work/2014/01/post-27.html>
- <http://www.hj.sanno.ac.jp/ps/page/7158>
- <http://www.nihongokentei.jp/>